



蘇詩
解
改正肯令博覽
三頁
四





夏部目録

夏の天氣。占候。養生法等也。下出

△印夏三月也

夏時令

此部より夏三月からしむる
時侯のりぬるもの

△夏日

三十一

△夏月

夏の霜
三十一

△夏曉

三十一

△夏朝

三十一

△夏夕

△夏暮
三十一

△夏夜

三十一

△夏山

三十一

△夏野

三十一

△夏川

三十一

△暑

△涼

三十一

夏州木

此部より夏三ヶ月の
木とす

△夏草

三十一

△夏木

△木立
△榎
△紅葉
三十一

△夏柳

六十一

△柳

△柳
六十一

△青素椒

三十一

△山椒

△山椒
三十一



夏 目録

△苳葱 七十一 △馬齒莧 七十二

△苳草 七十二 △苳路 七十二

△蓼 七十二 △藜 七十二

△根芋 七十二 △蓴菜 七十二

△海松 八十一 △水草の花 八十一

夏生類 此部より夏三月までの
季のいささかのあつむ

△蚊 八十一 △蚊遣火 蚊火 八十一

△蚊柱 九十一 △蟻 九十一

△螢 九十一 △螢 九十一

△蝸牛 九十一 △蛞蝓 九十一

△夏鷹 九十一 △鷹鳥屋籠 九十一

△鶺鴒 九十一 △蠅虎 九十一

△蠅 九十一 △鶺鴒川 九十一

△青鷺 九十一 △通鴨 九十一

△鮓 九十一 △胡鮓 九十一

△水鱧 九十一 △水鱧 九十一

△干鱧 九十一 △干鰻 九十一

△洗鱸 九十一 △鮓 九十一

△鯨 九十一 △蟹 九十一

△鹽鳥賊 九十一 △魚菜 九十一

夏雜 此部より夏三月の種々
の雜事をあつむ

△短夜 明安と夜 蚊帳 蚊屋 九十一

△扇 伏翼 團扇 九十一

△日傘 編笠 九十一

△夏断 夏書 夏花 夏經 九十一

△安居 夏書 夏行 九十一

△新麥 切麥 九十一

煮冷 △冷汁 麥飯 △

麥粉 △ 木布 △

草物 △ 汗衫 △

汗巾 △ 汗手拭 △

必用 此部より夏三ヶ月の入用のこと

夏養生 △ 夏天氣 △

夏風 △ 夏雲 △

夏霞 △

夏時令

此部より夏三ヶ月の時候の物とある

夏日

夫木 為家
急死面日影ゆるる夏の
日ふるびくくろりの風をよじと

連 白雲小艇そよまけ新小宗祇

詩 夏日五字對句

九天鑪焰暖

避暑得深幽

六月玉聲寒

忘年遂久留

詩 夏日之詞

明 黃氏

深完塵消散 干炎篆烟如

夢晝淹々 奧フカキ殿院ハ各別

埃王消散シテ暑 輕風似與荷

花約為送香來自捲簾

くト吹風ハ荷ノ花ト兼約アリテ花

クタヌニ吹タルヤウニ
オモハルトナリ

夏月 夏の霜ももつり 新古今 頼政

庭の面ももつりからぬふ夕ぐらりの
そくそをけなくする月う那

夫木 為相

待出づれば山の本れる後りありて
うをそくする月の庭う那

千五百番哥合 後京極摂政

静の雲けつけりやとやあま
さつこのよつろ山ありこの月

夫木 河上夏月 定家

たをねくこと板川のさるんは
ふあんとあつる夏月う那

家集 夏夜曉月 仲正

かりそめれあすささううたね
かてあり明の月成りう那

詞月そかこく杖とれまきて
あつりの明るやとと神心降と杖

けりやうのつら葉もり涼も
あつり杖はかう衣とすし寒もり

清も雲のつてほくをさおす杖
まの明るをふすくまはさ明

安き月を秘もさる本れるも
夕すみ光りすすく

連 夏月を光りすく月夜 昌叱

非 夏月蚊をさすて夏百友 其角

狂 夏月をさすて夏月 芭蕉

狂 夏月をさすて夏月 芭蕉

狂 夏月をさすて夏月 芭蕉

○夏の月をさすて夏月 芭蕉

よむ事かき月のかげを霜に見
たて夏の霜とも云 白樂天

月照平砂夏夜霜 世詩朗歌集

唐詩選 李白

牀前看月光疑是地上霜

詩 七字對句 詩礎

涼月照枕歎窓倦 水偏清

澄泉繞石泛觴遲 松下涼

山徑晚雲收獵網 足涼風

山徑晚雲收獵網 足涼風

山徑晚雲收獵網 足涼風

山徑晚雲收獵網 足涼風

水門涼月スイモンリヤウゲツ 挂漁竿カクギヨカナ 孤月涼コガツスミレ

夏曉

夜の明くことつり
續後撰 定家

あけかりゆつさるはあつたの
たの道にも似ぬ夜をたぐり

夏朝

夜明しとも明て後も云
玉葉 雅有

まらねはよのそいづげまて
あつたをさるゆきさるはあ

夫木

夏朝

為家

夏とあさそあさくじりこも
とさそ涼とさおあけ乃を

夏夕

△夏 暮 玉吟 俊頼
松を夕涼とする

浦人の心もあはれをみらけり
蚊いあはせなれ夏夕多道す

夏夜

△夫木 入道撰
友の沈の汀よりす

かると火の光も涼一々やとのを
六百番哥合 後京極撰政

うらぬの夏よりさるはあつた
ふやとくきす一さるれそ

同

夏夜短

定家

友のよいさるあれうれま
むらあつたさるうぬの夏

詞考りも涼し。あをかくすれい。を
のけり火蚊をう火。風涼し。あを
らふ福も夏とあつた。夏とびう。

月ものころ。蚊の声。馬よりほ

俳 夏は蚊の音に蚊の起り其角
夏は蚊の音もあつたは蚊の種一秋
夏は蚊の音もあつたは蚊の種一晶

詩 夏夜五字對句

簾涼清露夜 山露侵衣潤

琴響碧天秋 江風捲簾涼

クモナギンラコトヒク

詩 夏夜七字對句

詩礎

池邊命海憐風月 霰翠幃

浦口回船惜芰荷 水亭閑

詩 夏夜之詞 明 揚慎

湘水魚鱗冷 簟文博山泉

篆罷鑪薰 魚ノオドルケシキヲ

開牖對影延新月

坐愛金波洗火雲 月ニ對シ

夏山 龜山百首 子雄

夏山のまきこ本誌小富月とめて

連 夏山ヤサシの心このころい

夏山 龜山百首 子雄

詩 夏山五字對句

山樹含斜日 秀木涵秀色

池風波早涼 奇峯出奇雲

詩 同七字對句 詩礎

幽谿鹿過苔還靜 夏雲端

深樹雲來鳥不知 冷溪山

夏野 龜山殿 為尹

詞 卯の心時多 夏夜

能 京州の笛とる 夏時

夏川 古今 新

涼 さい秋やかさひて初瀬川

ふる川舟人の杖の下かき有家

俳月花梅梅はつは美奈川百卷

夏川の青い鳥あつた赤い鳥あつた重五

暑ー△涼ー 暑氣と涼の六月小限

又同一事より涼の奇連

俳ハ六月の部九三下目又出

夏草木 此部ハ夏三月ヨリ

夏草 新古今 藤原元真

玉汗の乃のいへも心とふみ

詞 志あふまゝあびをりうらぬ

かた山 山人の程を谷のけま野

螢志がこゝろをてく風吹かす

合上虫ののちと里人のあま

連 武蔵守のあつた民のあま

俳 夏草のあつた古狐の岩

夏木 △夏木立△若葉紅葉○結

若葉△瀬葉△のぼり

玉葉集 院

俳 夏木五字對句

拂曙携清賞 緑樹溪邊合

披雲坐緑陰 清山郭外斜

詩 全七字對句 詩礎

漠々水田飛白鷺 日月昏

夏 草木

夏ノ六

陰々夏木轉黃鸝

僧院深

斜陽映閣山當水

樹松雲

微綠含風樹滿天

水殿開

詩 夏木之詞

唐 王昌齡

綠樹重陰蓋四隣 青苔日厚

自無塵 夏木立クロミシゲリテク

頭箕踞長松下 白眼看他世上

人 合々人ノ外ハ交ラ

夏柳 葉柳 秋夕

神 佐宿木花とあり

新勅

重政

神の林と松もさきありはく

青素椒 巴椒蜀椒 但州朝 倉谷より出るもの

甚美らう丹波丹後小其枝を つぎ今丹波の朝倉と稱と又奥 州津輕の産大がて氣味勝る

山椒 小しきころの妙術 灰を 甜さべし又男さるが女のぬる女 さらぬ男のぬるごととれが忽ち治る

柚山椒 所々稀小あり枝葉 相似て香氣抽橘の類

山崖椒 葉大キ 細花をのき実い緑豆 味美あり

春葱 初生針のさき 酢醬に和し生を喰ふ

馬齒莧

醬辨草。醬抄草。金非稟。和名まごころ

① 非 たりきくま妹より馬莧丁左

妙術 ころころを家の軒に掛

置たり馬虫其 苔草 地膚

家へ入らずとて

へとろろくく入 路 数冬。花

七月は花きく 春さくく

蓼

七種あり。紫。赤。青。香。馬。水。木蓼より播刈

津田穂蓼と出と

年中穂ありとて

藜 苗と

あつりのとてくく入るる莖

の成長しとて杖とす

根芋

和名いもかき一云いり

煮て喰へ剥皮乾ても可く

蓴菜

嫩莖未ご葉ありとて物と

推蓴といひ稍の長と

る者と絲蓴といひ秋より

老るるのよと葵蓴と名づく

海松

水松 状ち松のまじく

いと葉を食用とす

① 未 此はの南に風かうれるもの

とくく除けのや此里定家

② 吹 吹こぬとてふるさ海にたつ風 肖柏

③ 非 ころころ波にけりる煙は貝其角

④ の 内海の産

ともころめ立甫

⑤ 連 志きりゆ水まも此の海外東根

⑥ 非 多受かや味か渋乃を心計

夏生類

此部より夏三月ある

蚊

異名 白鳥。暑蟲。○唐土嶺

南の蚊木有葉冬青の如

く実枇杷のじし熟とる時

蚊出くころころ又塞北は蚊母

草あり葉の中血虫あり

此むく化して蚊とるころころ

○又江東は蚊母鳥あり蚊と吐く

⑦ 非 ばよやく蚊いさむる

蚊と煙や塵如く移るのさめ云 其角
狂はみあるもあはれいも生るる
居りかたをいふるやうふべき 宗明

詩 蚊之詞

明 陳成

白鳥向交時嘗々 應若饑 昼ハ

カクレテウヘ 進身因暮夜得志入

簾帷 夜ハ已カ時ヲ得タリトシ

嘸吸吾方困飛賜汝自嬉 吾等

清

風一朝至倏忽竟安之 秋風

フキキタラハスゴクト
極外ヘカテニトイフナリ

蚊遣火 △蚊火ともつら

かき火の煙ふあつことすまは
のむひのきまふら那

詞形を竹けり 縁をきや 夜あ
くまそふら申比蚊の夢もじ

うらひのひびくせむ煙 藻の着蚊の
聲遠きあびくさびとじ里 所

せれた魚の たび孫

非蚊を火やわつる方お老むら其角

狂蚊より火の巨燵の内ふていふら
をぐる河のすだていふら架柳

蚊柱 蚊の多く集ると云 非 蚊
柱は蚊の浸ちがるに其角

蜻 蛚子。蝶子。山中。非 磯礫の
音潮をいふしてさかめき台澤

蛭 水蛭ハ水中まあり草蛭
といふ草味はありま

笄蛭といふ者あり状がらびら
びら 大なる者一尺ふあふ

蚕 蠶 非 鉤形ヤ舩又蚕
といふ初めり 老前

狂 別の皮もややく中ふ痛む
これや大子花のこの虫る 道明

螢 新螢。山螢。流螢。異名 丹
鳥。夜光。霄燭。丹良。

暉夜燐。夜半受。熠燿。

夫木 知家

丹々の新風ふやうるをさるるん
こほきてさへぬかまのほゆ

室治首首 水邊堂 頼氏

くれわけのこの下くまきいしの
みくしりうのまらやうるす

家集 海辺堂 清補

そぬ風ふるいくのまほけさゆりそ
さほまぬあやうるさうけり

夫木 樹下堂 隆祐

そと河ういそひやあさくくをみ
く入秋かままじりうけ

夫木 旗堂 俊頼

あし山やうる秋けのまらへそ
たうりいふのことくまらたり

家集 螢火乱風 仲正

風かけいりあうるほふまわして
まのひあつくよりのまむ

常盤井晋谷 螢照細流 仲正

夏むのちを谷河をてまよ
くほ乃ゆいさうまの甲山

家集 河辺見堂 好忠

むれ木のぬもあはれさうり川
ことあうりれてまよさうり

長久哥合 漆河堂 経信

いさう火の浪るまるとまゆれも
そめういさうるかうくたり

同 行路堂 経信

ゆれぬほさうすさぬよいぬん
まよひやせほさうのゆり

同 古寺堂 経信

今そあうまの林りりいさ
そくいさうさうやうさう

夫木 螢火透簾 寂蓮

かすたれいせらまのむ川とて
おひあうてもゆやうるう

後拾 沢堂 公雄

花さふいあうとあう澤乃
う川る絶そりいりゆあ

玉葉 叢回堂 左大臣

吹色又あひくはさのまれま
さぬまぬあやまらうり

夫木 江螢 家長

かたさけぬきし小舟にたぐる
つらえのやうな船をたぐひゆく

夫木 湊堂 光俊

日くらけし神の湯をゆくやう
こびりけりしのかきやうやん

家集 竹裏堂 讚岐

うらたけのよこふさふさのたぐり
やうなほこりけりしをり

詞 歌てはひひり。りゆり。甘ひ
花よこえぬ。ほやうねけりあひ

くらき。月日ふきくら。曉くげ
うらき。夕中をてはひくわら

風みくら。夜涼くもやう。うこま
の雲。よひの雲。花よこえぬ。花

そつてりやう。きき井小形。その
上まそいぬべく。雨あひもよぬ

五月ぬ。病。新中。あひまう
木陰。草。まらしてきく。まはすく

茶茶はさる。若れきげしは花
茶茶母りやう。水草。あまふやう

ま川ふふくまき。ふまき
すわらふすく。草の葉風ふ

まら。草の葉風ふ。あまふの
尾を。あまふの神ふす。あまふの

り。あまふの。あまふの。あまふの
竹。あまふの。あまふの。あまふの

あまふの。あまふの。あまふの
あまふの。あまふの。あまふの

あまふの。あまふの。あまふの
あまふの。あまふの。あまふの

あまふの。あまふの。あまふの
あまふの。あまふの。あまふの

あまふの。あまふの。あまふの
あまふの。あまふの。あまふの

あまふの。あまふの。あまふの
あまふの。あまふの。あまふの

あまふの。あまふの。あまふの
あまふの。あまふの。あまふの

あまふの。あまふの。あまふの
あまふの。あまふの。あまふの

夏一生類
 夏十一
 竹灯を秋
 秋の意
 運花
 蘭
 非
 君
 迷
 狂
 曉
 露
 詩
 螢五字對句
 貞佐

詩
 七七字對句
 詩礎

江
 鳥
 宿

詩
 書
 飛

水
 照
 流

江
 水
 多

荒
 弄
 畫

空
 寄
 流

詩
 螢
 詞
 唐
 杜
 甫

幸
 出
 近
 大
 陽
 未

足
 臨
 書
 卷
 時
 能
 點
 客
 衣

隨
 風
 隔
 幕
 小
 帶
 雨
 傍
 林
 微

風
 雨
 十
 月

清
 霜
 重
 飄
 零
 何
 處
 歸

項
 二
 八
 字
 對
 句

詩 全

唐李嘉祐

映水光難定 凌虛體自輕

水面ニモカゲツツ光イツレノ処
ニ定メ難ク虚ヲ凌ギ高クトビ

露洗還明 夜風吹不滅秋

然トカロレ 風フケテ螢火ノ燈
火ハ滅ヘス夜露ニ

燭投書更有情 向燭仍藏

アタレテ珠カラス 却テ明光ヲ倍ス
光ナケレトモ

流亂影來此 傍簷楹

影ノ簷クテハ楹
ニツフテウツルナリ

故國無心渡海潮 老禪方丈

コクハ心ニシテ波ヲシテ方丈ニシテ

倚中條 深雨絕松堂 靜一點山螢照

ヨルチヲテツニ 出テセンヲ子リテナル
夜

寂寥 夜アメヤミ 禪室ヘテラシ
クルホタルスントシタツ

唐鄭谷

螢 故事

晋ノ車胤ハ 博覽多識

ニシテ書ヲ讀フヲ好ム家貧

シテ常ニ油ヲ得ルヲ得ズ

夏ノ夜螢ヲ集メテ箱ノ囊

ニ入レ盛リテ昏ヲ照シテ讀ケ

ルト 務成子螢

ナリ 為丸却矢 火丸ヲ製ス

漢ノ劉子南其方ヲ得テ調

合シテ佩ケルニアルトキ虜ト

戰フテ圍メレケルトキ矢ノ来

ルヲ雨ノ如クナリシカ劉子南カ

馬ヨリ五六尺ガカリニナレバ其

矢地ニ墜テ子南ニ中ラズ傷

ナカリシ故虜ノ兵モフレギニ

思ヒ神ナリトシテカコミヲ解

去リシ 螢火丸 一名冠將丸
又武威丸トナリ

毛名ツク 螢火 鬼箭羽 蒺藜
各一雄黃 雌黃 各二 殺羊角 性

存ス一 椹石 火燒 鐵鐘柄入鐵處
兩半 燒焦 共ニ未ト為シ雞子黃丹

雄雞ノ冠一具ヲ以テ和シ搗チ千
下。丸シテ杏仁ノ如ク三角ニシテ

絳囊ニ五九ヲ盛テ左ノ臂ニ
帶テ從軍腰ノ中ニ繫レハ五

兵白又ヲ辟ク家戸ノ上ニ掛ケ
ヲケバ盜賊ヲ辟ク又能ク疾

病惡氣百鬼虎狼咬
蜂 蠱 諸毒ヲ治ス

試谷

江州石山寺あり此谷の螢常
の螢火又倍と毎年芒種五月の節

ハ後五日夏至五月の中の後五日に
至リ十五日の間と盛リ寺北の

橋とかさる東ハ川をかさうて
曾て外ふあは夜時節過る時

ハ宇治川又至る此所ハ夏至小
暑六月の間と盛リと然然共

瀬田の多きふまう俗に
頼政の亡魂化して成と云

腐

草化成螢

礼記

仙畫の
小有

法 螢火虫 百枚 雲母石 二枚 共
研り末とく是を筆に以

ちし何ふてもひらうと現さんと
思ふ画の上と操るへ一二次す

つねまの十月の内日の晩光り
て現すと十二次と一年の間光有

子 子 蝸 蝸 蝸 蝸 蝸 蝸
此虫化して蚊とある

蝸牛 蝸牛 蝸牛 蝸牛 蝸牛 蝸牛
名の註 象蝸牛の売まつる

牛 蝸牛 蝸牛 蝸牛 蝸牛 蝸牛
行心 蝸牛売とひいふの如く

とふてなめりありくとつ。山蝸
ハ山はあり又余るりのあり

蝸牛 蝸牛 蝸牛 蝸牛 蝸牛 蝸牛
蝸牛も売とてなめりゆ

蝸牛 蝸牛 蝸牛 蝸牛 蝸牛 蝸牛
蝸牛も売とてなめりゆ

このぶくろひあつてあまう。土牛ははのあつてあまう。

⑤ 夫木 寂蓮

牛は子ふゆまうるを産のかうう角のいれとて身さまたのそ

⑥ 蝸牛角うり冬よびんあし 芭蕉 百毒や角小目とあつてうり嵐雪 拾遺家をいうかううり訥子

⑦ 蛞蝓 附蝸。土蝸。鼻凍蟲。蛞蝓螺。托胎蟲。陵蟲。

○附蝸。土蝸より小かつうり小似とる故く。蛞蝓螺も引つりゆくかちらひくつ。鼻凍虫はかちうりかやりの出るといふ。托胎蟲。陵蟲。いづれも文字の通り。

⑧ 蛞蝓の初来かこつて蚊を香移竹

⑨ 夏鷹 夏はうり鷹もか小鷹あり雲雀をく用也

⑩ 鷹鳥屋籠 羽を替させんたけ鳥屋へ故

ち置く四月堀入の所よ委一 ⑪ 鳩のう毛糸とる香やよは屋 不短

⑫ 鵲 正字詳あつて大小の二種あり大さうりの頂よ

白き冠あつ小き ⑬ 蠅虎 蠅のうのハ此冠赤し 蠅虎 蠅のう

⑭ 蠅 蠅も各種類多し中に赤頭と忌と淵明が文に見え

⑮ 能くこのふれ不辭をいふ其角ありうり蠅を打ち韓退子 全

⑯ 鶺鴒 鶺鴒飼。鶺鴒舟。陸鶺鴒川。夜川。漁人鶺鴒小魚と

取せ未咽又下らざる時其のふとみせべ則ち自ら出と鶺鴒けひかされ漁人の手おてみこまを魚を吐く又妙なり濃州岐阜に至て妙を得る漁人多し一度又十四双を放つりのあり

⑰ 新古今 前大僧正慈圓 鶺鴒船ありとぞかろるのぬの

八十の川の又乃そく
同 癖蓮法師

うかいねえん 藤子守 藤子守
結入 進ゆく かく火のうき
夫木 光俊

比川 小夜子 乃じ 桂人
うまい 乃じ 乃じ 乃じ
拾遺愚草 雨後 鶴川 定家
うまい 乃じ 乃じ 乃じ
草根 遠近 鶴川 慈鎮

うまい 乃じ 乃じ 乃じ
うまい 乃じ 乃じ 乃じ
うまい 乃じ 乃じ 乃じ
うまい 乃じ 乃じ 乃じ

詞 夜川の 篠 夜川 乃 乃
川 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃

詞 松浦川。宇治川。玉川。夏川。とや水。とるき水。沢水。江み。水車。管。深。

非 山崎の鮎。方鮎。松浦。と安成

狂 はくし。し。の。せ。に。は。の。ひ。の。い。

生 研。と。も。又。あ。さ。ら。ふ。と。り。 満水

故 鮎。事。 日本紀神功皇后肥

梅豆羅國。と。今。松浦。と。い。誤。

釣。と。い。づ。じ。き。物。と。其。所。を

梅豆羅國。と。今。松浦。と。い。誤。

胡鮎。子。り。 潮。ひ。ひ。

内。是。と。切。流。一。漬。ふ。り。と。も

い。り。即。水。多。そ。の。事。り。

水。鱧。 桶。水。と。さ。へ。魚。派

つ。多。大。坂。より。大。和

へ。送。ふ。大。和。川。を。船。で。曳。乃

り。この。故。水。も。と。い。ふ。り。

干。鱧。 海。鰻。十。頭。つ。り。と。も

ら。や。い。ま。る。り。の。い。

干。鰻。 非。お。と。よ。ぬ。腹。も

干。さ。ん。て。干。豚。外。青。藍

下。の。春。秋。春。と。委。一

魚。藻。 下。の。春。秋。春。と。委。一

洗。鱧。 川。に。在。り。の。と。佳。と。守。三

四。寸。と。せ。い。と。い。ふ。り

夏。魚。軒。と。作。り。わ。ら。ひ。淨。え

焚。酒。と。て。食。ふ。是。と。洗。と。き。と。ま

鮎。 鮎。鮎。と。い。ふ。り。と。訓。と

名。物。 江。州。の。鮎。濃。州。の

鮎。和。州。吉。野。鮎。是。と。釣。瓶。鮎

と。名。つ。く。城。州。宇。治。鰻。鮎。根

州。福。島。の。小。鮎。と。い。ふ。り。と。か

づ。と。和。州。今。井。の。鮎。越。前

引。田。今。庄。の。鮎。と。い。ふ。り。と。等

と。い。ふ。名。物。乃。と。い。ふ。り。

と。い。ふ。名。物。乃。と。い。ふ。り。

と。い。ふ。名。物。乃。と。い。ふ。り。

と。い。ふ。名。物。乃。と。い。ふ。り。

と。い。ふ。名。物。乃。と。い。ふ。り。

と。い。ふ。名。物。乃。と。い。ふ。り。

と。い。ふ。名。物。乃。と。い。ふ。り。

と。い。ふ。名。物。乃。と。い。ふ。り。

と。い。ふ。名。物。乃。と。い。ふ。り。

と。い。ふ。名。物。乃。と。い。ふ。り。



蟹 鹽漬しほはあつるりのりあつ 或は酒又糟漬ても可あつ

鹽鳥賊 しほ 異名 鰻魚。塩漬ものいあつ 干鳥賊あつりりあつ

夏雜 此部より夏三ヶ月の種々の雜事とすあつ

短夜 あつ 明安夜あつ 新古今 式内觀あつ 窓のり竹のそとあつ

風あつのきふいゝ短夜あつのそとあつ 詞あつのきふいゝ明安夜あつ 池の江無火あつ

文周庭蚊の声。月うあつ 連あつのりりあつ 蚊帳あつ 宗牧

非あつのりりあつ 蚊帳あつ 宗牧 枕あつのりりあつ 蚊帳あつ 宗牧

蚊屋賣 非あつのりりあつ 蚊帳あつ 宗牧 蚊屋賣

その中あつのりりあつ 扇あつ 異名 氷織あつ 雪雀あつ 回

風招涼あつ かいりあつ 風うあつ 州たあつ 新古今 忠岑

夏あつのりりあつ 扇あつ 宗牧 詞あつのりりあつ 扇あつ 宗牧

詞あつのりりあつ 扇あつ 宗牧 風あつのりりあつ 扇あつ 宗牧

風あつのりりあつ 扇あつ 宗牧 扇あつのりりあつ 扇あつ 宗牧

扇あつのりりあつ 扇あつ 宗牧 扇あつのりりあつ 扇あつ 宗牧

扇あつのりりあつ 扇あつ 宗牧 扇あつのりりあつ 扇あつ 宗牧

扇あつのりりあつ 扇あつ 宗牧 扇あつのりりあつ 扇あつ 宗牧

扇あつのりりあつ 扇あつ 宗牧 扇あつのりりあつ 扇あつ 宗牧

扇あつのりりあつ 扇あつ 宗牧 扇あつのりりあつ 扇あつ 宗牧

扇あつのりりあつ 扇あつ 宗牧 扇あつのりりあつ 扇あつ 宗牧

扇あつのりりあつ 扇あつ 宗牧 扇あつのりりあつ 扇あつ 宗牧

扇あつのりりあつ 扇あつ 宗牧 扇あつのりりあつ 扇あつ 宗牧

流風入坐飄歌扇リウフウニツテザニヒルカセニヲ扇影飄セニヒルカセニヲ

瀑水當階澣舞衣ハクスイアツテカニシノグブイニ逐酒來ツイサケタキタル

勻粉時交合歡扇イソコノキカセラレヤウニ共徘徊トモニハイクスイ

追杯乍舉石榴裙ツイハイタテマタクセキリウクン涼風前リヤウフウ

伏翼フツイ扇のりく蝙蝠を見てセニヒルカセニヲ作り出とゆへ扇と直スミレイ丸セ

草子クサコ清少納言の枕スミレイ丸セの去年のトモニハイクスイかひちりアキチチスル

團扇ウララシ非秋のトモニハイクスイ客居アキチチスルのたぐアキチチスル

思オモむと菴アツカのアツカうらアツカりアツカのアツカ妙アツカ那アツカ十アツカ八アツカ

狂キヤウむキヤウかキヤウきキヤウきキヤウのキヤウ都キヤウはキヤウらキヤウらキヤウ

雲の上クモノウヘ光ヒカリくク風カゼをヲよヨぶブまマりリ湖ウミ松マツ

詩團扇之詞 唐 劉禹錫

團扇復團扇ダンセンフタダンセン奉君消暑殿ホウキョウシヨウジョウ

殿テンニテニテ君キミヲヲ御ミ秋アキ風フウ吹フク庭テイ樹ジュ從ヨリ此コ

不相見フタヘニミナミナシニハ木キニ秋アキノカノセセフフ上ウヘ有アリ衆シユ

寫シヤク女メ蒼ソウ々々華カ蟲チウ編ヘン明メイ年ネン入イ懷ヱ

袖スベテ別ニ是コト机キ中ナカ練レン小コカニヒビレレヨノウウクク

日傘ニチカサひヒもモこコもモ雨アメ傘カサのノ如ノ油アブ

編笠ヘンカサ莞ワン艸ソウをヲ以ヲてテこコもモつツるル

結夏ケツカ△夏籠△夏佛者四月カゲ六日ロクニチより七月シチゲツ十六日迄ジュウロクニチ一室イツシツも

△夏經△夏花△夏書

△夏断△安居△右いつま

△夏断△安居△右いつま

△夏断△安居△右いつま

△夏断△安居△右いつま

も夏より内の行状あり夏
りの内佛の花を供無縁のヒ靈
向又聖經の類を書寫して俗家
も夏祈といふ房事酒肉等慎む
者あり△安居といふ形心靜攝
此安といふ要期此に住まると居云

新麥

早きこのハ三月れき一
れそ泥物ハ五月の内出

切麥

△冷麥。天寒の時
ハ温飽をりりひ天

熱の節ハ冷麥作りちも
制ハある。寒温の違ひのこ

煮冷

△冷汁。夏ハ食物又
ハ汁も器へ入る

井水おはちわねたさ〜りへ
た〜〜に食ふ之に益も云

麥飯

狂を付て言位はりて
る。金多禪ハ名也。夏

麥粉

粒くの汗をいれ
麦粉有那 十

木布

布のこき〜き〜き
りのをき〜り〜り

單物△汗衫

官家の下
着とつる

或ハ袖も〜とりの〜り〜り俗
み〜襦袢乃た〜いなり

汗巾

△汗拭△汗手拭 汗
をぬく手巾なり又

夏の用具とつる

必用

此部ハ夏三月の入
用の事と数多あり

夏養生

素問云夏三月と蕃秀
と云天地の氣交り萬

物繁茂と夜は明し早ふ起志とて
怒事なく英花とて秀と云すめ

天氣とて〜は幸と得〜ひこれ
夏氣の應じらる處カて養生の道

○水とのこ水洗浴する事と云〇お
つ〜石の上は坐即〜寸熱とれ〜

生下冷ぢれ^ハ生と^ハ○風は當りて
脚こぢれ^ハ風痺等の病と生と

夏 天氣

日蝕黃赤の雨多^クハ吉
○月暈あるは多^クハ風吉

夏 風

夏風の中と吹萬物と長養
とる^ハ○夏ハ火ハ生土と

土と生と^ハ土中央の位方角はと
つと^ハ干支は^ハ戌未の方と俗ハ

五月^ノ西とて西風と雨とす^ハのハ時
節の火氣より火生土の土の方へ生て

吹風^ハと^ハ以^テ○東風ハ常^ニ雨^ニま
ると^ハ入梅の中^ニ土用^ハ雨^ニま^ハん

然^ルも久^ク吹^ツぎて風西^ハと^ハ雨
ま^ハる^ハ○南風ハ時の火と對^スる故^ニ雨^ニ

夏 雲

風の方位^ハま^ハか^ハひて
と^ハ雨と^ハま^ハる^ハ

夏 霞

暮^ハ西の方赤く^ハて
南^ハ廻^ルる^ハ日^ハ和^ク秋

小^ハつ^ハて^ハ西^ハより^ハ北^ハより^ハく



